

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02134

研究課題名(和文) 国立公園等の観光資源価値の再評価に関わる霊山の景観特性に関する研究

研究課題名(英文) A study on visual characteristics of settings of "Reizan" for reevaluating tourism resources in Natural park

研究代表者

小野 良平 (ONO, Ryohei)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：40272439

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：国立公園に代表される日本の自然風景地の観光資源性を発展的に見直すため、文化的資源でもある山岳(霊山)とその信仰の拠点となる社寺を対象とし、その社寺の立地の特徴を山岳だけではない自然、特に海との視覚的繋がりから明らかにすることを目的とした。

大山、妙高山、那智山等を対象に、地形情報に基づいた景観解析と現地調査を行った結果、山岳や滝と海が同時に見える土地に各社寺が立地していることを明らかとした。これらのことから、国立公園等における人文的資源である社寺が、直接の信仰対象である自然に留まらない広域の自然景観と結びついた価値を有することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多くは自然公園と重なる、霊山と称されるような日本の伝統的な山岳信仰の場が、歴史・文化的な価値に留まらず、山や海への眺望という眼に見える景観として理解することのできる、その地域の自然環境の総合的な特徴が反映された場でもあることを新たに明らかとした。このことにより、従来認識されてきた日本の自然公園の価値に新たな視点を加え、特に観光の立場から、今後の自然公園計画における資源性の評価のあり方や利用方針に関わる論点を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：For the purpose of rethinking of landscape conservation around "Reizan (sacred mountains)", where are nowadays likely to be designated as national park, case studies were conducted to analyze landscape settings of historic religious places in Reizan (Mt.Daisen, Mt.Myoko, Mt.Nachi, etc.) as their visual relationships with surrounding environment. Visibility analyses using DEM revealed that the religious places' settings are located on the area from where both of the sacred mountain and sea can be seen. The results show that the settings of historic religious places have visual connection with their surroundings. And they inspire a discussion that the landscape what we can see from there could be not a result of the past development, but a contributing factor of the development.

研究分野：ランドスケープ科学

キーワード：景観 霊山 自然公園 可視性

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

我が国の国立公園（自然公園）は、昭和1931年に制度が発足し80年を超える歴史を有し、その観光地としての役割は今なお極めて大きい。一方で昨今の観光の動向として、インバウンド観光の推進に挺入れを図る政府は、「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」を掲げ、「国立公園を世界水準のナショナルパークへ」と謳い、国立公園への期待は極めて高い。しかしその実現にはプロモーションの強化や観光客の利便性向上に留まらない、観光資源としての国立公園の価値の再認識と内外に向けた発信が求められている。

そのためには日本の自然や文化の特色を熟慮した国立公園の資源性の再評価が有効と考えられるが、ここで日本の国立公園の独自性として、富士山に代表されるように、信仰等と関わる社寺等の人文資源を多く含む公園が多いことが挙げられる。しかしながらこれまでの国立公園の経営（計画と管理運営）では、基本的にその保護と利用の対象を自然環境・景観とし、人文的資源である社寺等については山岳信仰など自然との関わりが知られているにもかかわらず、それを公園化以前から存する文化財として、自然の価値とは別個に扱ってきた傾向がある。

そこで、国立公園等の自然公園の資源性の新たな評価には、そこに存する人文的資源も含めた自然環境を、改めて風景・景観として統合的に評価することが学術的にも強く求められるといえる。これに関連して研究代表者は事前調査において、霊山と呼ばれる山岳信仰空間において、修験者や参拝者が、山岳だけでなく海などの自然への関わりを風景・景観を通して能動的に体験していたこ仮説を得、この試行的調査を国立公園等に存する山岳（霊山）信仰の社寺を対象に実施してその立地に関わる景観特性を明らかとすることを着想するに至った。

### 2. 研究の目的

本研究は、国立公園に代表される我が国の自然風景地が有する観光地としての資源性に関して、その価値評価法の再構築を目指す基礎的作業の一環として、国立公園等に立地する文化的資源である山岳信仰空間（霊山）に関わる代表的な社寺を対象とし、その立地空間における周辺の自然環境との視覚的繋がり（可視性）を分析し、その景観特性を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

調査対象の霊山として大山（大山寺・大山隠岐国立公園）、妙高山（関山神社・妙高戸隠連山国立公園）、那智滝（那智大社・吉野熊野国立公園）、高野山（金剛峯寺・高野竜神国定公園）等を設定し、これらに対して数値解析と現地調査の二つの調査を実施した。数値解析として、国土地理院提供の基盤地図情報のうち数値地図（標高メッシュ）を活用し、GISを用いて信仰対象となる山岳の山頂周辺の可視領域および海域の可視領域、さらに両者の同時可視領域を可視頻度（見られ頻度）として解析した。これをもとにその領域とそれぞれの社寺の立地条件との対応関係、すなわち各社寺から信仰対象の山岳と海域がどのように見えるかについて検討した。その上で現地に於いて解析結果について実態を確認し検証を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 大山（大山寺・大山隠岐国立公園）

大山寺・大神山神社の諸施設群とその参詣道・参道から見える周辺環境のうち、信仰に関わる重要な眺望対象の指標的な地物を設定し、次にその可視領域を網羅的に検索し、これと信仰の場の立地との関係を検討した。まず指標の眺望対象について、大神山神社奥宮社殿位置からの景観（図1-a）を基準に設定した。南側に大山の北壁を見上げ、北西方面は遠方まで弓ヶ浜、美保湾等を望む位置に奥宮が立地していることがわかり、その信仰上の意味を史資料『大山寺縁起絵巻』等も参照しながら、指標的な眺望対象となる地物を、大山北面および弓ヶ浜半島に設定した。

次にこれらに対する可視領域解析作業のために、大山北面と弓ヶ浜半島のそれぞれの地表面に視対象としての目標点を設定した。それは山肌や半島上の一点が見えるだけでは山や半島としては認識されないことを考慮し、それぞれがその地形の特徴に対応した姿形で視認されるよう、複数の目標点群を設定することである。

大山北面については、山頂から一定の下方までの連坦した山体が見える必要があると考えられ、その鉛直方向の見かけ上の幅が見やすい大きさ（視角  $0.5^{\circ}$  ～  $5^{\circ}$ ）かどうか、すなわち山頂付近の鉛直方向の山体の見込み角を指標に用いた。山頂から約200m下方の標高1500m地点に地形図上で1500m等高線に沿って、山頂付近の「弥山」、「剣ヶ峰」、「天狗ヶ峰」の各峰から北側に降りる細かい尾根筋上に3点をまず設定し、さらにこれらを挟むように北壁の西端部尾根上の点および東端部（「三鈷峰」に相当）の点を加えた計5点を大山北面の目標点群と設定した。

一方で弓ヶ浜半島については、弓ヶ浜半島が砂州として発達したものであり、加えて近世には付近の山地におけるたたら製鉄に伴い大量の土砂が美保湾に供給され、砂州の変化が特に顕著であったため、現在の水際線を目標点とすることには問題が多いことから、比較的浜に近く、近世初期でのその存在が確認でき、かつその後移転の記録が知られていない神社を歴史的に変化の少ない地点とみなし、半島の東西両側にそれぞれ半島付根部、中央部、先端部近くから計6社を選定し、その位置計6点を半島の目標点群とした。

そのうえで分析作業として、以上設定された大山北面と弓ヶ浜半島上の目標点群に対し、視程も考慮して大山を中心に約60km四方程度の範囲において、これらを視認できる土地の網羅的検索を行った。そして大山北面の可視領域、弓ヶ浜半島の可視領域をそれぞれ可視頻度として抽出

したのち、両者の共通部分、すなわち大山北面と弓ヶ浜半島の両方が見える可視領域を抽出した。そしてこの結果に対してまず広域的な観点から、大山への旧参詣道のルートとの関係を検討し、次いで大山寺・大神山神社周辺域について、参道、塔頭諸院、社殿等の立地との関係を検討した。

その結果、大山北面の可視領域（図 1-b）、弓ヶ浜半島の可視領域（図 1-c）と、これらの共通領域の解析を行い、これを旧参詣道のルートと照合したところ、特に米子からの尾高道を中心に、参詣道の一部ではあるが、そのルートが大山北面と弓ヶ浜半島その双方を眺望可能な立地環境にあったことが明らかとなった（図 1-d, e）。さらに、社殿付近についてみれば、参道から塔頭諸院を含む境内域の多くが大山北面と弓ヶ浜半島の双方を望む立地環境であったことも明らかとなった（図 1-f）。国立公園指定範囲との関係についてみると、参詣道沿いの大山・弓ヶ浜双方への良好な眺望地の一定領域が公園外であることが確認され（図 1-h）、公園計画上の課題としても認識が可能である。

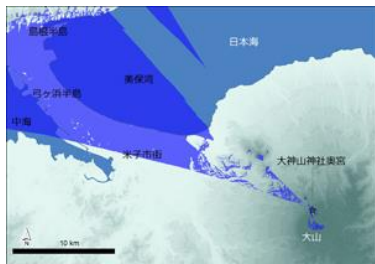


図 1-a

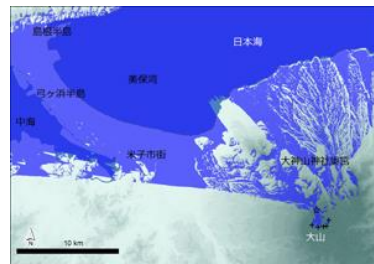


図 1-b

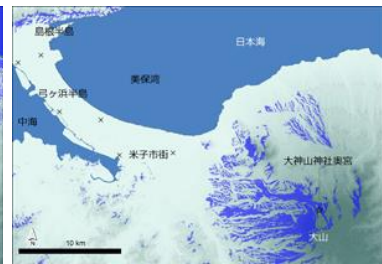


図 1-c



図 1-d

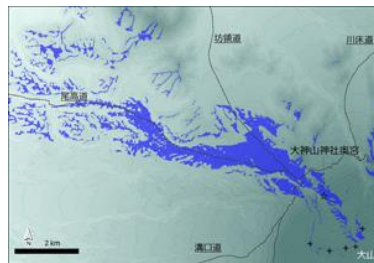


図 1-e

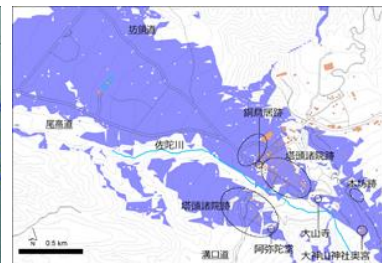


図 1-f

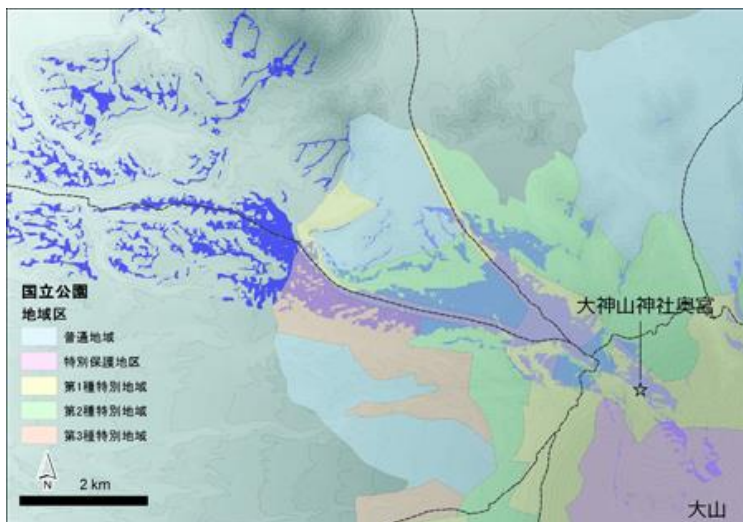


図 1-g



図 1-h

- a 大神山神社奥宮からの可視領域(青紫色部)
- b 大山北面の可視領域(青紫色部・5 目標点(+) 中 3 点以上)
- c 弓ヶ浜半島の可視領域(青紫色部・6 目標点(×) 中 3 点以上)
- d 大山北面かつ弓ヶ浜半島の可視領域(青紫色部)と参詣道(図 b と c の共通域)
- e d 図部分拡大図
- f 大山寺・大神山神社周辺域における大山北面かつ弓ヶ浜半島の可視領域(青紫色部)
- g 大山北面かつ弓ヶ浜半島の可視領域と大山隠岐国立公園(大山蒜山地域)
- h 旧尾高道付近より大山(上)、弓ヶ浜(下)(ともに国立公園外)

## (2) 妙高山（関山神社・妙高戸隠連山国立公園）

妙高山の里宮として関山神社（旧関山三社権現）が存在するが、ここはかつて妙高信仰の山岳修験場として最盛期には70坊を超える寺院群が存在していた場所であり、この中の旧宝蔵院には妙高山を借景とする庭園も残され、2013年には国の名勝指定を受けている。この立地を妙高山および日本海の可視性の観点から検証した。大山の方法と同様に、妙高山の山体については、カルデラおよび中央火口丘からそれぞれ2点、計4点の目標点を設定し、日本海については、柿崎川ー関川間の海岸砂丘地形上の4点の神社を目標点に設定した。妙高山の可視域は高田（頸城・上越）平野上に広がるが（図2-a）、妙高山に加えて日本海を同時に見ることのできる領域は、関山神社周辺の妙高山の裾野付近の関山から山上に向かうルート周辺の領域に限られていることが分かった。国立公園指定範囲との関係では、妙高へのアクセス道付近は一部指定範囲内にあるが、関山神社を含めた旧寺院群跡の地は指定範囲外である。関山神社周辺は現在住宅地であるが、まずその文化的価値の掘り起こしを景観と関連させながら行う可能性が示唆される。

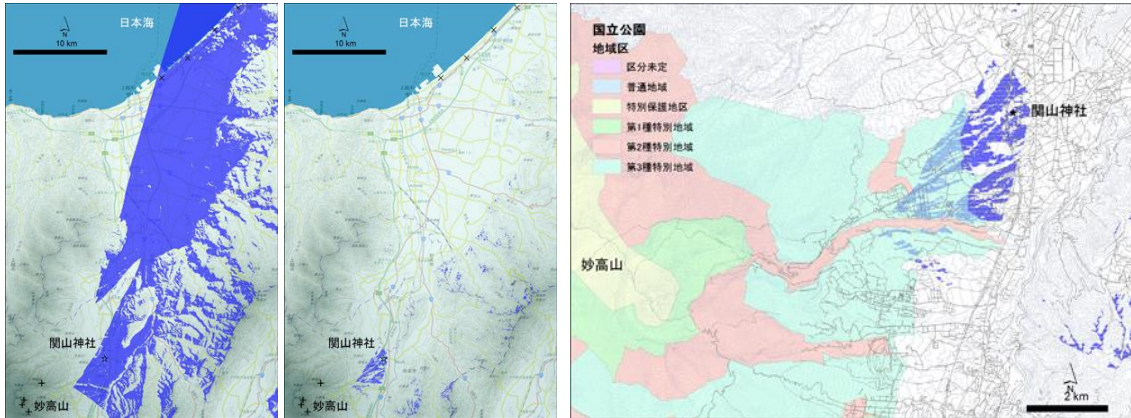


図 2-a

図 2-b

図 2-c

- a 妙高山(カルデラ+中央火口丘)の可視領域(青紫色部・4 目標点(+))すべて
- b 妙高山(4 目標点(+))かつ日本海(4 目標点(x))中 2 点以上の可視領域
- c 妙高山かつ日本海の可視領域と妙高戸隠連山国立公園(妙高地域)

## (3) 那智滝（那智大社・吉野熊野国立公園）

熊野三山の一つ、那智大社・青岸渡寺は妙法山に関わりその中腹に位置する霊山であるが、加えて特異的であるのは滝の信仰である。この滝は直線距離で7~8 kmほど離れた那智湾や那智勝浦からも見え、また青岸渡寺からは那智湾を望むことから、那智大社・青岸渡寺の立地を滝と海の可視性から検証した。滝と那智湾上（大平石）にそれぞれ目標点1点を設定し、双方の可視領域を検討したところ、那智大社は不可視域であったが、青岸渡寺がこの可視領域に立地していることを確認した（図3-a）。国立公園範囲との関係（図3-b）では、滝と社殿周辺を含め全体が公園区域ではあるが、滝とその背後が特別保護地区であるのに対して、社殿周辺は第2種特別地域であり、滝と社殿の視覚的繋がりが一帯の価値の核心部であることを考慮すると、一体的なゾーン設定の可能性も示唆される。加えて、参詣道との関わりとして、本事例では参詣道のルート上からの滝の可視性についても検討した。その結果、海側からアクセスする旧道は、滝の姿が連続して見える立地条件であることや、さらに大門坂もその多くの区間が滝を常に仰ぐようなルートであることが確認された（図3-c、図3-d, e）。参詣道上の継起的な景観特性について、さらなる調査の必要性が提示された。

## (4) 高野山（金剛峯寺・高野竜神国定公園）

空海の開いた高野山は、いわゆる霊峰を望むような空間ではなく、景観工学の樋口によって「八葉蓮華」タイプと名付けられた構造をなす、山上の盆地的な閉じた空間として捉えられている。確かに金剛峯寺を中心とする山内は周囲を山が囲む平坦な地にある。しかしその入り口に位置する大門からは、海が望まれる。その可視域を検証したところ、遠く40 km以上離れた紀ノ川河口部と紀伊水道、淡路島を望むことができる（図4-a, b）。大門は閉鎖的な高野山と外界との結界的存在として、内外の空間を視覚的に繋ぐ役割を果たす存在であると捉えることが可能である。高野山は高野竜神国定公園の指定範囲に概ね収まり、大門からの紀伊水道方面も一定範囲が公園指定されている。ただし国定公園自身の取り組みを含め、大門からの景観は必ずしも顕在化されているわけではなく、その価値の伝え方には課題と可能性を残す。



図 3-a

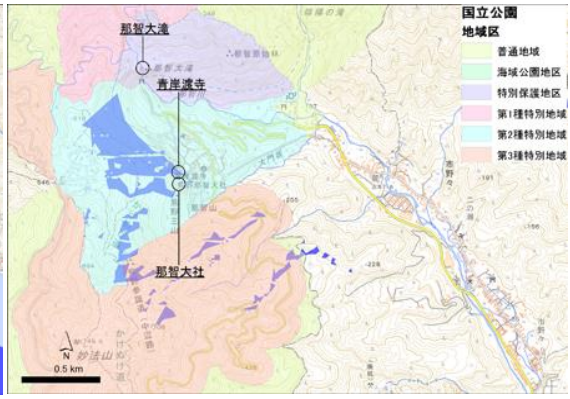


図 3-b

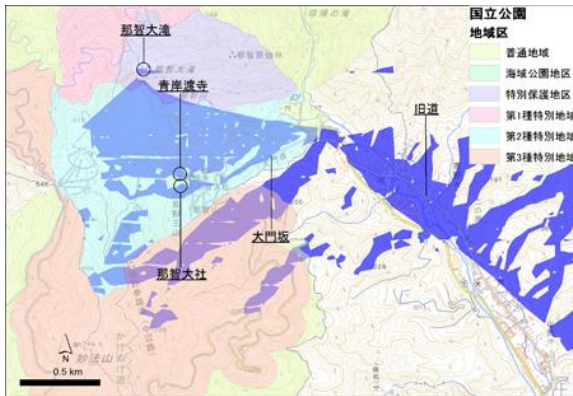


図 3-c



図 3-d

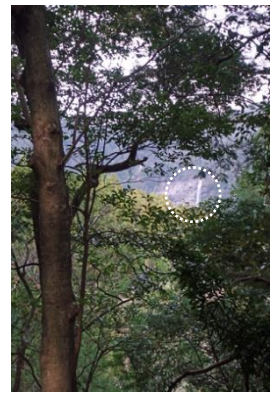


図 3-e

- a 那智滝と那智湾(大平石)の同時可視領域(青紫色部)
- b 那智滝と那智湾の同時可視領域と吉野熊野国立公園(熊野地域)範囲
- c 那智滝の可視領域と旧道・大門坂／d 旧道より(白点線内が滝)／e 大門坂より(白点線内が滝)



図 4-a



図 4-b

- a 高野山・大門からの可視領域(青紫色部)と高野竜神国定公園等自然公園範囲
- b 大門から紀伊水道と淡路島

<引用文献>

- ① 篠原修編・景観デザイン研究会、『景観用語事典』、彰国社、1998、44-45
- ② 樋口忠彦、『景観の構造』、技報堂出版、1975、108-114

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>小野良平                         | 4. 巻<br>83            |
| 2. 論文標題<br>伯耆大山における眺望景観からみた信仰の場の立地環境特性 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>ランドスケープ研究                    | 6. 最初と最後の頁<br>491-494 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>小野良平                        |
| 2. 発表標題<br>伯耆大山における眺望景観からみた信仰の場の立地環境特性 |
| 3. 学会等名<br>日本造園学会                      |
| 4. 発表年<br>2020年                        |

|                           |
|---------------------------|
| 1. 発表者名<br>小野良平           |
| 2. 発表標題<br>「国土美」から名勝を問い直す |
| 3. 学会等名<br>公益社団法人日本造園学会   |
| 4. 発表年<br>2019年           |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>小野良平          |
| 2. 発表標題<br>眺める場所と眺められた風景 |
| 3. 学会等名<br>日本造園学会        |
| 4. 発表年<br>2020年          |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|  | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|